

令和4年度 廿日市市保健福祉審議会 地域共生専門部会

地域共生専門部会では、地域共生社会の実現に関する計画の策定や推進、評価見直しに加え、地域包括ケアシステムの総合的な整備、多様な機関との連携強化や地域課題に対応するための地域のネットワーク構築のための議論を行っています。第3回となる今回は、令和4年度の締めくくりとして、第1回、第2回専門部会及び1月に行った委員ヒアリングの意見等から見えてきた共通課題について報告し、共通課題をテーマにグループに分かれて意見や助言をいただきました。

■ 会議概要

日時

令和5年3月7日（火）18時30分～20時30分

会場

山崎本社みんなのあいプラザ 2階 健康指導室

参加者

21名（専門部会委員：13名、市職員：5名、市社協：3名）※オンライン2名、会場19名



市全体（＝第1層協議体）で考えていく必要がある共通課題を次のとおり整理しました。

共通課題	ポイント
地域のことを協議する場づくり（協議体）	地域の理解／地域へのアプローチの仕方／キーパーソンの見極め／生活支援コーディネーターの役割／第1層～第3層協議体の機能と連動性 など
多機関の連携	地域と専門職、地域と施設の連携方策／相談支援機関の役割の相互理解／企業との連携方策／多様な主体の強みを生かした「関わりしろ」の作り方 など
地域を取り巻く環境の変化への対応	各地域、分野における現状の共有／今後必要となる取組の検討 など
これからの担い手	これからの担い手像／参加しやすさの工夫など

共通課題をテーマにグループに分かれて、現状、課題について議論し、今後に向けた意見・助言をいただきました。

【テーマ：地域のことを協議する場づくり】

＜現状と課題＞

- 地域によって、地域内の活動者が話し合う場ができ、地域ケア会議で挙げた個別事例の困りごとを解決する場にもなっているが、困りごとを持ち込む仕組みは弱かったり、困りごとについて話し合うことはできていて、個別のケースは「地域ケア会議」で話し合うが、個人情報への取扱いなどが影響し、うまく連動していないことがある。
- 世帯数が多い地域では、第3層協議体で挙げられたすべての意見を、第2層協議体に挙げることできていないことや、窓口をどこにしたらよいのか分からないことがある。

＜今後に向けて＞

- 地域住民によって構成される組織だけでなく、地域内の企業や商店、病院等とも話し合うなど協働で地域をつくっていくことが大事である
- 個人情報について、会議参加者が取扱いを理解し、十分に気を使うことを徹底する。
- 地域には既に様々な話し合いの場があることから、それぞれ役割分担してできることを担うのがよい。



【テーマ：多機関の連携】

＜現状と課題＞

- ・ 薬局では、市が作成している「つなぐシート」の記入について協力してもらえるところもあるが、薬局は地域によって少ないところもある。
- ・ ハローワーク、就労準備支援を行っている事業所など、様々なネットワークが既にあり、編み目のようにつないでいくことは可能である。
- ・ つながっている地域資源はたくさんあるが、整理仕切れておらず、今一度振り返り、うまく連携していくことが必要である。

＜今後に向けて＞

- ・ 見守り安心ネットワーク、各地域にあるコンビニなど、既にある資源を活用し、連携していくことが必要である。
- ・ 市の取組にはよいものが多いにもかかわらず、それを知らない市民がいるため、ターゲットに合わせ、周知や情報提供が必要である。



【テーマ：地域を取り巻く環境の変化への対応】

＜現状と課題＞

- ・ 個人主義が強くなり、地域に頼らなくても暮らしていくことができるようになった。地域活動等を容易に断ることができてしまい、活動を通して得られるはずのもの（心の豊かさ、安心感、一体感、役割など）に触れる機会を喪失している。結果的に地域に愛情を持てなくなり、地域を離れてしまう。
- ・ 障がいに関する制度や環境が整ってきている一方、障がいに対する差別や偏見など、地域住民の根幹の意識がありネガティブな教育がされている。

＜今後に向けて＞

- ・ 人は「つながりたい」と思っていることが変わらないとすれば、地域活動等へのきっかけをどうつくるかがポイント。
- ・ 参加した人が継続した動きとなるよう、地域自治組織との連携を視野に入れ、仕組みとすること。
- ・ 障がいのある人も同じ地域で暮らす仲間であると思えるような働きかけが必要である。



【テーマ：これからの担い手】

＜現状と課題＞

- ・ 以前は60歳代の人でも活動に参加していたが、最近は少ない。男性の居場所づくりが課題である。
- ・ 顔見知りの関係を地域で自然につくることができる機会が減っていることから、新たな関係性の作り直しが必要である。

＜今後に向けて＞

- ・ 支援されている人を担い手にできるような仕掛けづくりを。
- ・ 仲間内で担い合う、近所にこだわらない関係づくりなど、今後は新しい形が求められる。



■ 手島部会長からまとめ

皆さんの報告から、4つのキーワードが見えてきました。

1つ目は、「変化」です。身の回りの変化をよく見て、よく理解して、それを読み解く力が必要になります。変化に合った地域の活動をしたり、変化に対して地域のことを考えたりする機会を作っていけたら良いと思います。

2つ目は、「ネットワーク（連携）」です。すでにたくさんあるネットワークの網の目を細かくしていくことでネットワークを豊かにしていくことにつながります。

3つ目に、「小地域」です。小地域では間接的ではなく、直接的に地域の様子や課題を知り、自分たちが発した意見がそのまま活動につながっていく。それによって、地域が自分たちの生活から離れてしまわないようにつなげることができるというところに意義深さを感じました。

最後に、「コーディネーターの役割」についてです。第1層協議体から第3層協議体をつなぐことや、様々なネットワークをつないでいくこともコーディネーターの役割です。ソーシャルワーカーとして、専門職としての役割も改めて重要さが分かりました。